平成30年度 学校評価一覽 佐野市立三好小学校

目標	重点項目	主な具体策	評価指標	評価方法・評価基準	関連アンケート等	肯定回答	教職員による自己評価	学校評議員による学校関係者評価
確かな学力へ自ら学びくふうする子供	①言語活動の充実と学校研究課題の解決に向けた授業展開をする。	●積極的な授業公開と研究会の充実	●授業の分かりやすさ	●児童・保護者対象アンケートの結果 →80%以上の肯定的回答	児Ⅰ3・4 保Ⅰ5・6	96% 96% 86% 96%	◇全員が年2回以上の校内授業公開や授業研究会でのポイント研修、全国学力学習状況調査問題や結果を分析し、指導法の改善を図った結果分かりやすさにつながっている。継続していきたい。	◆保護者アンケートから、授業がわかりやすいと思っていない児童が15人程度いることがわかる。授業についていけない児童に適切な支援をお願いしたい。 ◆「ノーテレビ・ノーゲームデー」に80%以上が取り組めたことで、学力向上につながるのではない。
	②主体的・意欲的に学習に取り組む態度を育てる。	●発達段階に応じた課題(宿題)を与えるとともに、全学年に家庭学習の手引きの配付と、自主学習の実例の紹介	●自主的に学ぶとする意欲が高まり、家庭学習の習慣が身に付いている。	●「学年×10分+30分」の家庭学習を実践できている児童の割合 →70%以上の児童が達成	児Ⅰ8 保Ⅲ1	72% 90%	◇「ノーテレビ・ノーゲームデー」を改善した結果80%以上が取り組めた。 ◇家庭学習については、全体的に習慣化が図られてきているが、学習時間の確保や内容について工夫できるように例示をしたり様々な課題を与えたりしていきたい。	◆「学年×10分+30分」の家庭学習を実践できている児童の割合が70%以上だが、習い事などで忙しい中、よくやっている。
豊かな心へ仲よく助け合う子供	①基本的な生活習慣を身に付けさせる。	●返事、挨拶、聞く態度、立腰等について、全職員共通理解の下、継続的に指導する。	●児童が挨拶の大切さを理解し、明るく元気な挨拶をしている。	●児童・保護者対象アンケートの結果 →肯定的回答が昨年度より増加	児Ⅱ2 保Ⅲ2 保Ⅲ6	91% 77% 90%	◇保護者アンケートの結果は昨年度とほぼ変わらないが、挨拶ができないという意見もあるので、あいさつ10箇条を再確認させる手立てを講じていきたい。	◆保護者も教職員も挨拶の必要性を感じている。社会に出たときに重要であることをしっかりと教え、大人が率先して挨拶するようにすべきである。 ◆読み聞かせボランティアとして学校に出入りするようになってから、学校だけでなく地域でも気持ちの良い挨拶をしてくれる児童が増えた。
	②人権を基盤とした人間関係の形成を図る。	●人権に関する作文・標語の作成、異年齢集団の交流活動、道徳の時間の充実等により、児童の人権意識を高める。	●いじめは絶対許さないという意識が浸透するとともに、児童は学校が楽しいと思っている。	●Q U (楽しい学校生活を送るためのアンケート)の結果 →「学級生活満足群」に入る児童が70%以上 ●児童・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	Q U 児Ⅱ1 児Ⅱ3 児Ⅱ4 保Ⅰ2 保Ⅰ7	71% 96% 98% 93% 94% 96%	◇代表委員会で児童自らいじめのない学校作りを考え、標語や交流給食などを実施できたことで意識が高まっている。 ◇児童、保護者ともに肯定的な回答が高いので、今後も人権週間や道徳の時間の充実と保護者啓発に努めていきたい。	◆これからもいじめ0の指導をお願いしたい。→三好小の現状は、いじめ0とは言えないが、発生時には素早く指導し、保護者の理解も得、解消するとともに見守りを継続している。
健やかな体へ強くたくましい子供	①運動部活動を奨励し、運動の習慣化を図る。	●特設部活動として水泳、陸上、駅伝の他、ミニバスケットボール、サッカー、ダンスを設置し、参加を呼びかける。	●より多くの児童が、運動部活動に入学し、意欲的に練習に取り組んでいる。	●陸上部、駅伝部に入学した5・6年児童の練習参加率 →90%以上	参加率 保Ⅲ5	約9割 61%	◇陸上部と駅伝部に参加した4年希望者が5・6年生に刺激を与え、練習に励む姿が見られた。 ◇外部講師の導入も考え、より意欲を高め生涯体育につながるよう考えていきたい。 ◇家庭での体力づくりが難しくなっているようなので各種便りで呼びかけていく。	◆運動部の種類が多く、活躍しているし、体力づくりにもつながっている。家庭の事情で難しいこともあるだろうが、ぜひ多くの児童の参加を促してほしい。 ◆あそ野学園のように大きな学校になると、「希望者だけ」の参加が予想されるので、運動をしない子が増えるのではないかと。 ◆スクールバス利用者は登下校でほとんど歩かない。家で縄跳びや跳躍、走るなどして筋肉をつけたり体力をつけたりしてほしい。
	②実践的避難訓練を実施する。	●昨年度とは異なる危機を設定し安全な行動をとれるようにしていく。	●教職員児童ともに安全に対する意識を高める。	●訓練の中に新たな内容を一部取り入れる →毎回取り入れる	実施状況	3回実施	◇様々な危機への対応をできるように実施できた。児童自ら安全を確保できるようにするために実施計画に児童が自分で考える場を明確に位置づけることと、事前に避難訓練の目当てとして児童に指導しておく。	◆災害が増えているので、「自分だけは大丈夫」という意識をもたせないように指導してほしい。
家庭・地域・小中学校との連携	①開かれた学校づくりに努める。	●保護者や地域住民等に対して、教育活動に関する情報を積極的に発信する。	●各種たより、授業参観、学校Webサイト等を通して学校の様子を積極的に伝えている。	●学校Webサイトの更新状況 →90%以上の授業日に更新 ●保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	更新率 保Ⅱ1	89% 93%	◇学校Webサイトに掲載した記事数は、288(1月24日時点)で、152日更新して学校の様子を伝えることができた。また、校長室だよりを月2回発行した。 ◇児童の様子だけでなく学習環境のことや地域や関係機関との連携に関する記事の掲載などを心掛けた。様々な目標を念頭に置き関連した内容を知らせるよう改善していきたい。	◆ホームページが見やすく、更新も多いので、児童の学校生活のことがよくわかる。校長室だよりも、タイムリーに読みたい。 ◆他の近隣の学校に比べて、地域との関わりは多い方ではないか。イベントのマンネリ化もあるかもしれないが、PRして、参加者を増やしてほしい。
	②家庭や地域との連携を強め、地域教材・人材を活用する。	●地域の教育資源を教育活動に取り入れる(農園活動、うどん打ち、茶道、読み聞かせ、町探検、学習支援、みんなのつどい、昔の遊び、登山、野外炊飯)	●事前打ち合わせなどで教育活動を見直し効果を高めている。	●PDCAサイクルにより教育活動を見直しながら確実に実践する →活動の80%以上見直し ●保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	活動計画 保Ⅰ1	90% 94%	◇各活動を行うに当たって打ち合わせ等で内容を確認してきたことを、今後も継続していく。地域の教育資源の開発については、あそ野学園にも関わるので、様々な場で周知していく。	◆地域人材を活用した教育活動は素晴らしいので、続けてほしい。
信頼される教職員	①教職員自らの資質の向上に努める。	●学力向上を目指して、授業改善に取り組む。	●教材研究を確実に進めるとともに、学力向上を意識しながら、1時間1時間を大切にしながら授業の展開に努めている。	●「とちぎっ子学習状況調査」(4・5年)及び「全国学力・学習状況調査」(6年)の結果 →市・県・全国の平均正答率を上回る ●児童・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	結果 児Ⅰ3 児Ⅰ4 保Ⅰ5 保Ⅰ6	学年により差 96% 98% 86% 96%	◇全国学力・学習状況調査では、国語AB算数ABとも県・全国の平均正答率を下回った。理科では、上回っていた。とちぎっ子学習状況調査については、算数・国語・理科で4・5年とも県・市の平均正答率を上回っていた。落ち着いた学習に向かう態度と苦手な児童に対応するチームティーチングをより進めていきたい。 ◇授業の分かりやすさや参加意欲は90%以上の児童が肯定的な評価をしているが、保護者は「楽しく分かりやすい」項目において低くなっている。分かって楽しい授業について研修を深めていきたい。	◆全国学力・学習状況調査で県・全国の平均正答率を下回った教科があるのは心配である。 ◆今日の授業ではどのクラスも「発表会」をしていた。わかりやすく、ゆっくりと、起承転結をつけて発表するのが理想だが、その一歩であると思う。
	②児童一人一人の気持ちや考えを聴き取り、支え励ます。	●児童との触れ合いを通じて児童理解に努めるとともに、共感的な人間関係の確立を目指す。	●教師自身が言動に配慮しながら、児童との心の交流に努めている。	●児童・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	児Ⅲ1 児Ⅲ2 児Ⅲ3 保Ⅰ3	99% 100% 96% 94%	◇アンケート調査の結果では、どの項目も評価基準の90%を越えており、教師と児童・児童同士の共感的な人間関係づくりが行われていると考える。今後も、言動に留意しながら指導に当たっていききたい。	◆授業が楽しい、学校に行くのが楽しい、信頼できる先生・相談に乗ってくれる先生がいる、と答えている児童が多い。三好小の先生はみんなで見守っている雰囲気があるので、それが安心感につながっているのだろう。